

【緑地を楽しむ本】

## 『盆栽えほん』

大野八生 作      あすなろ書房



『盆栽』というと、「植物を人為的に、形を強制的に変えて育てていくもの」というイメージがあり、植物を枯らせるのが得意な私には、ほとんど遠い存在のものに思っていました。遠い存在だから、イメージが先行してしまうのでしょう

ね。「おじいちゃんの趣味」という印象も否めません。

この本では、子どもが（やはり）おじいちゃんと盆栽を作っていくのですが、「植物を材料にして絵を描くようなもの」で、苗を買ってきて作ってもいいし、その他に、こぼれ種から芽生えたものを育ててもいい、種から・・・たとえば自分で食べた果物の種から育ててみるのも楽しいと丁寧に手順が説明されています。柑橘類の苗

は、葉の香りが楽しめるもあり、これはちょっと、栽培が苦手な私もチャレンジしてみたいくなります。盆栽の名脇役として「苔」も紹介されていて、こちらも気になるところです。

室内での伝統的な飾り方等も紹介され、そんなお作法があるのかと和食に付随する世界文化遺産的な感もあります。

小さな苗を育てて、大きな森をつくるもよし、盆栽の中に小さな世界を見たてるのもよし、子どもたちが植物を育てるきっかけになればいいなと思います。

子ども向けの本ですが、大人のための盆栽入門にもピッタリだと思います。

（遠藤）